

(9) 貝類

貝類 001	陸産貝類 マイマイ目 (柄眼目) オナジマイマイ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ)</b> <i>Euhadra scaevola scaevola</i> (Martens) ( <i>E. s. interioris</i> Pilsbry)		

【選定理由】

山地の自然林から古い杉の植林内の低木林の落葉下や湿度の保たれた沢沿いの低木や草本の根元、石組みの間等に生息し、個体数は非常に少ない。近年の林床の乾燥化に伴い、生息地や個体数が著しく減少してきた。ミヤマヒダリマキマイマイ種群は 3 亜種が愛知県では記録されているが、それらの完全な区別は困難で、本書では小型の個体群を原名亜種のミヤマヒダリマキマイマイ (*E. s. s.*) とし、石灰岩地に分布する周辺殻の強い大型の亜種のみカワマイマイ (*E. s. mikawa*) とは区別して取り扱う。原名亜種より殻径に比べて殻高が低く周辺角が弱い大型の亜種ヒラヒダリマキマイマイ (*E. s. i.*) はミヤマヒダリマキマイマイに内包する。この亜種の取り扱いが愛知県レッドデータブック (愛知県環境調査センター, 2009) に準じた。岡崎市内では旧岡崎市内に 1 地点生息地が記録されていた (山田, 1991) が、現在同所では生息が確認できない。また本宮山 (野々部ほか, 1984) からは再三の調査にもかかわらず生息が確認できない。近年新たに 1 地点生息地 (図示標本の産地) が発見されているが、本亜種の生息地、個体数共に著しく少ない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II 類
環境省	絶滅危惧 II 類

【形態】

ミヤマヒダリマキマイマイは殻径 30mm、殻高 15mm 内外、周縁角は顕著であるがみカワマイマイのような強い周辺角にはならない。ヒラヒダリマキマイマイは大形で、殻径 41mm、殻高 20mm 内外で、比較的殻高が低い個体が多い。愛知県で典型的なミヤマヒダリマキマイマイは鳳来町棚山でのみ記録されており (野々部ほか, 1984; 愛知県環境調査センター, 2009)、その他の生息地では大型のヒラヒダリマキマイマイ型がほとんどで、やや周辺角が強くみカワマイマイに近似した個体も珍しくない。今回図示した個体もミヤマヒダリマキマイマイとしては典型的ではなく、みカワマイマイとの中間的な形態である。



岡崎市 (旧額田町) 滝尻, 2009 年, 西尾和久 採集

【分布の概要】

ミヤマヒダリマキマイマイは関東西部、静岡県、山梨県、石川県に分布するが稀産。ヒラヒダリマキマイマイは長野県、福井県、岐阜県、滋賀県、三重県に分布するとされている。なおみカワマイマイは豊橋市嵩山をタイプ産地とし、静岡県西部にかけての石灰岩地に分布する。分布域は静岡県側の方が広い。

【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

生息地周辺の自然林や沢筋の保全に留意する。

【特記事項】

愛知県はミヤマヒダリマキマイマイ、みカワマイマイ、ヒラヒダリマキマイマイの 3 亜種の移行地域として本種群の分布上重要な地域である。岡崎市はみカワマイマイとヒラヒダリマキマイマイとの移行地域のようなのである。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009・動物編, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について. かきつばた, 17: 5-7. 名古屋貝類談話会.

【関連文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4: 13.  
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 343pp. 保育社, 大阪.  
木村昭一・中根吉夫, 1996a. 第 2 節 軟体動物. 稲武町教育委員会(編), 稲武町史 -自然- 本文編, pp.374-378.  
木村昭一・中根吉夫, 1996b. 第 5 章 軟体動物. 稲武町教育委員会(編), 稲武町史 -自然- 資料編, pp.119-126.  
増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸産淡水産貝類相, 74pp. 東海大学自然史博物館.

(執筆者 木村昭一)

貝類 002	淡水産貝類 イシガイ目 イシガイ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>イシガイ <i>Unio douglasiae nipponensis</i> (Martens)</b>		

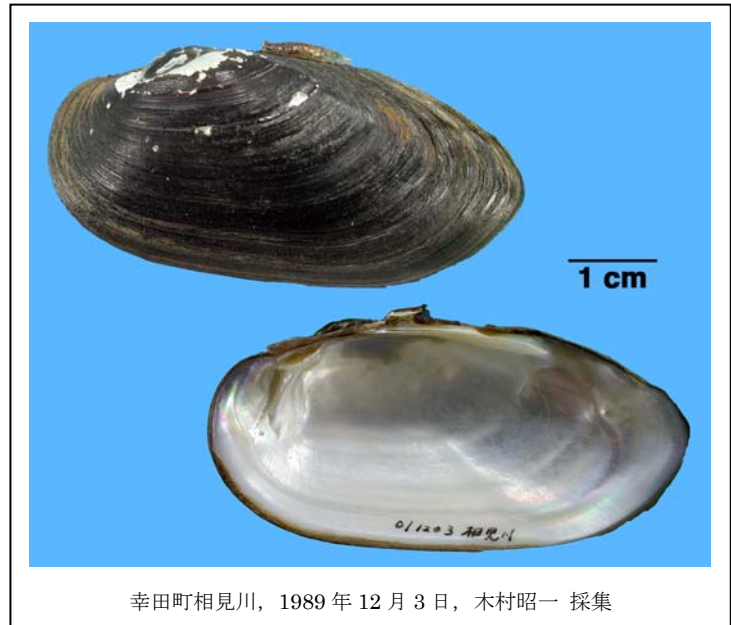
**【選定理由】**

本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。愛知県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体の生息が危機的状況である。本種の県内における生息場所は木村(1994)を含めて現在15地点しかない。岡崎市でもかつては安藤川や数ヶ所のため池で生息が確認されていたが、1980年代ですでに個体数が少ないことが報告されていた(永井, 1985)。今回の調査では上述の生息地での生息が確認できなかった。額田郡幸田町の相見川ではわずかな生貝が現在も採集されているが、岡崎市側では生息が確認されていない。危機的生息状況である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A類
環境省	リスト外

**【形態】**

日本産イシガイ科貝類としては中型で通常、殻長7cm程度であるが、湖沼産の個体は大型になる傾向がある。殻長に比べて殻高が小さく輪郭は細長い方形。殻長部分には弱いさざ波状の彫刻がある。主歯は前側縁と平行で細長く、後側歯も長い。



幸田町相見川, 1989年12月3日, 木村昭一 採集

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

1960年代中頃までは木曽川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで広く生息が確認されていたが(愛知県科学教育センター, 1967)、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で木村(1994)では6カ所でのみ生息が確認されたが、個体数が少なかった2カ所では1998年から2001年の現地調査では再発見されていない。2005年木曽川本流の調査で生息地が追加されたが、個体数は非常に少ない(木村, 2006)。

**【世界及び国内の分布】**

日本固有亜種。北海道、本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。

**【生息地の環境／生態的特性】**

上述したように河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で絶滅が危惧される。

**【保全上の留意点】**

水質の浄化、無秩序な護岸工事の禁止などは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

**【特記事項】**

岐阜県(2001)では絶滅危惧II類にランクされている。

**【引用文献】**

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
 岐阜県健康福祉環境部自然環境森林課(編), 2001. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 -岐阜県レッドデータブック-, 350pp. 岐阜県, 岐阜市.  
 木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
 木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録, かきつばた, 32: 22-25. 名古屋貝類談話会.  
 永井 貞, 1985. 岡崎市の貝類. 新編岡崎市史 自然 14, pp.1203-1208. 新編岡崎市史編さん委員会.

(執筆者 木村昭一)

貝類 003	淡水産貝類 イシガイ目 イシガイ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>マツカサガイ <i>Inversidens japonensis</i> (Lea)</b>		

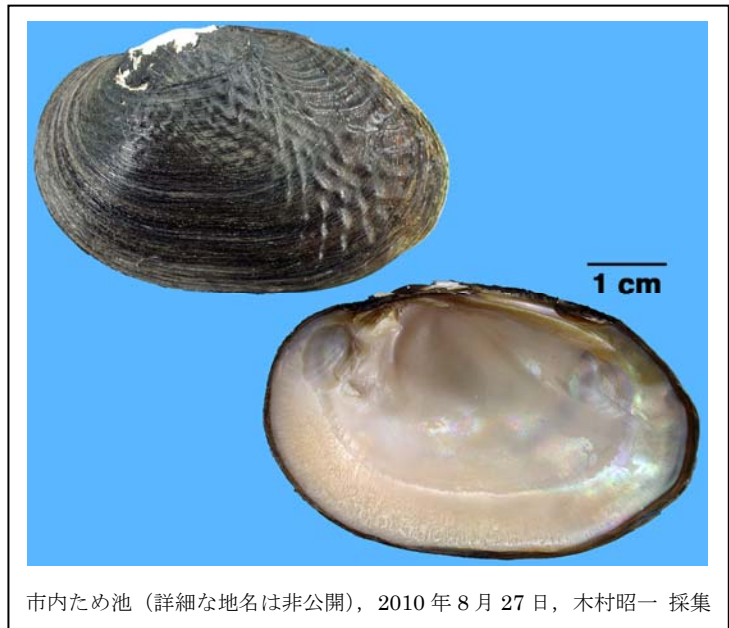
**【選定理由】**

本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体（愛知県科学教育センター, 1967）の生息が危機的状況である。本種の県内における生息場所は木村（1994）を含めて現在7カ所しかない。岡崎市でもかつては多くの小河川、ため池で生息が確認されていたが、ほとんどの生息地が破壊され、わずか1ヶ所のため池のみで生息が確認されていた（永井, 1985）。今回の調査でもわずか1ヶ所のため池のみで生息が確認できた。危機的生息状況である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A類
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

日本産イシガイ科貝類としては通常小型な部類で、殻長5cm程度であるが、湖沼産の個体は大きくなり8cmを越す個体も採集される。オバエボシガイほどではないが殻長に比べて殻高が大きく輪郭は方形に近い。殻の後部には分岐した肋状の強い彫刻があり、前部にかけて弱くなり縮緬状から顆粒状の彫刻が覆う。この殻表の彫刻が「松毬」を連想させるこの和名がある。ただし殻表の彫刻の著しく弱い個体も見られる。主歯は三角形で強く、後側歯も強く長い。



市内ため池（詳細な地名は非公開），2010年8月27日，木村昭一 採集

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

1960年代中頃までは木曾川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで広く生息が確認されていたが（愛知県科学教育センター, 1967）、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で木村（1994）では1カ所でのみ生息が確認され、その後の調査で2カ所の生息が確認された。ただしそのうちの2カ所では極めて個体数が少ない。豊川市白川ではわずかに生息を確認したにすぎない（木村・浅香, 2004）。2005年木曾川本流の調査でも生息が確認できなかった（木村, 2006）。

**【世界及び国内の分布】**

日本固有種。北海道、本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。

**【生息地の環境／生態的特性】**

上述したように河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で絶滅が危惧される。

**【保全上の留意点】**

水質の浄化、無秩序な護岸工事の禁止などは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

**【特記事項】**

水産資源保護協会（1995）では「減少」とランクされ、本種の分布域全体での絶滅の危惧が指摘されている。千葉県（2000）では重要保護生物にランクされている。岐阜県（2001）では絶滅危惧Ⅱ類にランクされている。

**【引用文献】**

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
 岐阜県健康福祉環境部自然環境森林課（編）, 2001. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 -岐阜県レッドデータブック-, 350pp. 岐阜県, 岐阜市.  
 木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
 木村昭一・浅香智也, 2004. 豊川市白川の淡水二枚貝類相, かきつばた, 29: 21-24. 名古屋貝類談話会.  
 木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録, かきつばた, 32: 22-25. 名古屋貝類談話会.  
 水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(Ⅱ), 131pp.  
 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

（執筆者 木村昭一）

貝類 004	淡水産貝類 イシガイ目 イシガイ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>トンガリササノハガイ <i>Lanceolaria grayana cuspidata</i> Kira</b>		

**【選定理由】**

本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体（愛知県科学教育センター, 1967）の生息が危機的状況である。本種の県内における生息場所は木村（1994）を含めて現在 11 地点しかない。岡崎市でも、正式な生息記録がなく（永井, 1985）。安藤川での生息が比較的近年まで確認されていた（永井 貞氏私信）が、今回の調査では死殻すら採集することができなかった。但し、安藤川の下流の矢作古川（西尾市）では現在もわずかな個体数ではあるが生息が確認されている。いずれにしても岡崎市内では危機的生息状況である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A類
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

日本産イシガイ科貝類としては中型で細長い、殻長 10cm 程度であるが、止水産の個体は大型になる傾向がある。後端が鋭くとがり殻長に比べて殻高が非常に小さく輪郭は細長い笹の葉状。和名もこの形に由来する。



**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

1960 年代中頃までは木曾川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで広く生息が確認されていたが（愛知県科学教育センター, 1967）、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で木村（1994）では 5 カ所でのみ生息が確認されたが、1 カ所では 1998 年から 2001 年の現地調査では再発見されていない。それ以外に、豊橋市に生息地が 1 地点ある（松岡・伊澤, 1993）。2005 年木曾川本流の調査で生息地が追加されたが、個体数は非常に少ない（木村, 2006）。

**【世界及び国内の分布】**

日本固有種。愛知県以西の本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。

**【生息地の環境／生態的特性】**

上述したように河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で絶滅が危惧される。

**【保全上の留意点】**

水質の浄化、無秩序な護岸工事の禁止などは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

**【特記事項】**

現在豊橋市の生息地は本種の分布東限である。  
岐阜県（2001）では絶滅危惧 II 類にランクされている。

**【引用文献】**

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
岐阜県健康福祉環境部自然環境森林課（編）, 2001. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 -岐阜県レッドデータブック-, 350pp. 岐阜県, 岐阜市.  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録, かきつばた, 32: 22-25. 名古屋貝類談話会.  
松岡敬二・伊澤伸恵, 1993. 豊橋市荒神池のトンガリササノハガイ, 豊橋市自然史博物館研究報告第 3 号: 37-39.

（執筆者 木村昭一）

貝類 005	陸産貝類 マイマイ目 (柄眼目) キセルガイ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>ミカワギセル <i>Mesophaedusa hickonis mikawa</i> (Pilsbry)</b>		

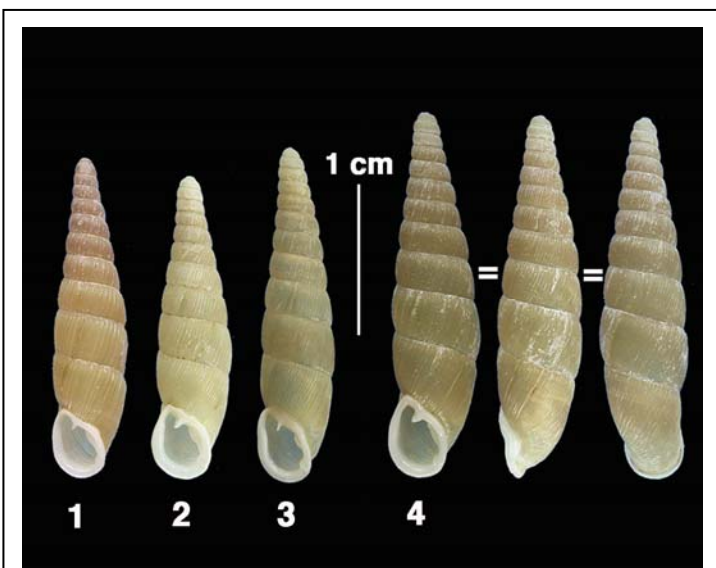
**【選定理由】**

本種は三重県中部、愛知県東部、静岡県西部に分布する中型のキセルガイで、幡豆郡三ヶ根山をタイプ産地とする。原名亜種のコンボウギセルとはミカワギセルの殻が小型であること、強い縦肋が発達することなどで区別される。山地から平野部まで点々と分布するが、寺社林や谷沿いの自然林内の落葉、朽木や礫の下に生息していることが多い。産地による貝殻の変異が大きく、愛知県内でも数型に分けることができる。タイプ産地の三ヶ根山では自然林の伐採によって、嵩山(図1)の石灰岩地では乾燥化によって個体数が著しく減少している。本種の生息地は現在も少なくはないが、上述のような生息状況の悪化は多くの生息地で認められる。岡崎市内でも旧岡崎市内でのミカワギセルの分布状況の記録(山田, 1991)と比較すると、かつての生息地で今回の調査では生息が確認できなかった例が多かった。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

殻高15~23mm程度、殻は細長く、螺層数7~9層。成長脈が強い縦肋に発達する。主襞と3~4の腔襞がある。産地によって殻の形態の変異が大きい。豊橋市嵩山町の個体は小型で殻が厚く、縦肋が強い(図1)。蒲郡市では西浦半島に分布し、小型で縦肋が弱い(図2)。幡豆郡の個体(図3)はタイプ産地の三ヶ根山に地理的に近く、形態はタイプ産地の個体とよく似ているが、やや細い。岡崎市内(図4)から幸田町北部の個体はやや大型で、縦肋はやや弱い。



1: 豊橋市嵩山町, 2006年9月20日, 木村昭一 採集  
 2: 蒲郡市西浦町, 1989年3月1日, 木村昭一 採集  
 3: 幡豆郡吉良町, 1988年12月4日, 木村昭一 採集  
 4: 岡崎市小呂町, 2011年1月15日, 木村昭一 採集

**【分布の概要】**

三重県中部、愛知県東部、静岡県西部に分布する。県内では渥美半島、西尾市より東の三河部、北限は豊田市面ノ木峠周辺(木村・中根, 1996a; 木村・中根, 1996b)。岡崎市内では1983年から1991年の調査期間における旧岡崎市内で7ヶ所の生息地が報告されたが(山田, 1991)、そのうちの1ヶ所でしか現在生息が確認できない。現在額田町を含む岡崎市内では6ヶ所の生息地が確認されているが、その面積は狭く個体数も少ない生息地が多い。

**【生息地の環境／生態的特性】**

【選定理由】の項参照。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

【選定理由】の項参照。

**【保全上の留意点】**

寺社林の保全、自然林の伐採等生息環境の改変を防止する。

**【引用文献】**

川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類, 豊橋市自然史博物館研報第21号: 31-43.  
 木村昭一・中根吉夫, 1996a. 第2節 軟体動物. 稲武町教育委員会(編), 稲武町史 -自然- 本文編, pp.374-378.  
 木村昭一・中根吉夫, 1996b. 第5章 軟体動物. 稲武町教育委員会(編), 稲武町史 -自然- 資料編, pp.119-126.  
 山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について. かきつばた, 17: 5-7. 名古屋貝類談話会.

**【関連文献】**

東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 343pp. 保育社, 大阪.  
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, 日本貝類学会.  
 増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸淡水産貝類相, 74pp. 東海大学自然史博物館.

(執筆者 木村昭一)

貝類 006	陸産貝類 マイマイ目 (柄眼目) キセルガイ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>ハチノコギセル <i>Mundiphaedusa kawasakii</i> (Koroda)</b>		

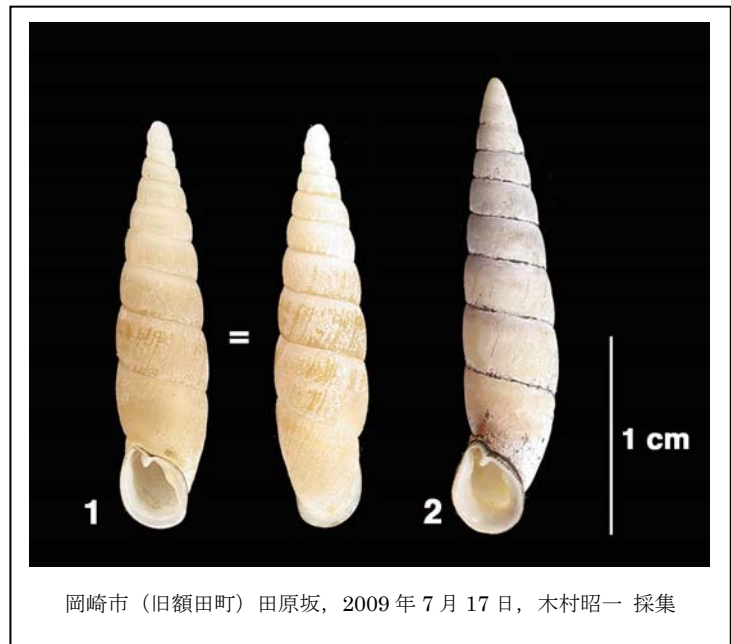
**【選定理由】**

愛知県豊橋市嵩山をタイプ産地とするキセルガイで、タイプ産地では個体数は著しく減少傾向にある。タイプ産地から石巻山周辺の個体のみをハチノコギセルとし、東三河の山地から静岡県西部の山地に生息する個体群はツメギセルの東海型とする説と、タイプ産地を含んだ東三河の山地から静岡県西部の山地に生息する個体群も含めてハチノコギセルとする説がある。タイプ産地周辺の個体は小型で、腔壁の形態もその他の産地と異なるが、それらの特徴は漸進的であることなどから、本書では東三河地方から静岡県西部の個体群をハチノコギセルとする。この様な本種の扱いについては、増田・波部 (1989)、並びに愛知県レッドデータブック (愛知県環境調査センター, 2009) と同じである。岡崎市内では額田郡の2ヶ所の狭い地域で、わずかな個体数の生息が確認された。本種の額田郡の生息地の周辺では、2011年の台風の影響により、生息地周辺で大規模な土砂流失、崩落などが起きた。本種の生息地、個体数とも減少していると考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

殻は中型で殻高約 20mm、殻径 5mm、和名の通り紡錘形。若い個体 (図 1) では淡黄褐色の殻皮が保存されていて、半透明で殻表には弱い光沢があり、螺頂部は急に細くなる。大部分の生息地において本種の若い個体は稀で、殻皮がはがれて、殻質が重厚で灰白色不透明になった老成個体 (図 2) の個体数の方が多い。



岡崎市 (旧額田町) 田原坂, 2009年7月17日, 木村昭一 採集

**【分布の概要】**

古くは嵩山、石巻山の特産種とされていたが、選定理由の項目にもあるように、広く東三河地方の山地から静岡県西部に分布することが明らかになった。豊田市足助地区 (川瀬ほか, 2011) が本種の分布の西限と考えられる。

**【生息地の環境／生態的特性】**

タイプ産地では石灰岩地の礫間に生息するが、非石灰岩地にも分布する。よく保全された自然林内の湿度の保たれた岩礫地の落葉下を好む。多産することではなく、老成個体が数個体ずつ採集されることが多く、殻皮が保存された若い個体は特に個体数が少ない。個体の寿命は長い、新規加入個体が少ない繁殖生態と考えられる。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

石巻山、嵩山を始めとして、上述した分布域では、もともと個体数が少ない上に、生息場所が砂防堰堤工事や土砂崩落などで破壊されている。同時に林床の乾燥化傾向も追い打ちをかけている。

**【保全上の留意点】**

生息地を中心とした自然林や岩礫地の保全に留意する。

**【保全上の留意点】**

岡崎市では旧岡崎市の記録である山田 (1991) には生息が記録されておらず、本報告が本種の岡崎市からの初記録となる。

**【引用文献】**

愛知県環境調査センター (編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編, 651pp.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類, 豊橋市自然史博物館研報第 21 号: 31-43.  
 増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸淡水産貝類相, 74pp. 東海大学自然史博物館.  
 山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について. かきつばた, 17: 5-7. 名古屋貝類談話会.

**【関連文献】**

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
 天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4: 6.  
 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 343pp. 保育社, 大阪.  
 木村昭一・中根吉夫, 1996a. 第 2 節 軟体動物. 稲武町教育委員会 (編), 稲武町史 -自然- 本文編, pp.374-378.  
 木村昭一・中根吉夫, 1996b. 第 5 章 軟体動物. 稲武町教育委員会 (編), 稲武町史 -自然- 資料編, pp.119-126.  
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

(執筆者 木村昭一)

貝類 007	陸産貝類 マイマイ目 (柄眼目) ナンバンマイマイ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>ビロウドマイマイ <i>Nipponochloritis oscitans</i> (Martens)</b>		

**【選定理由】**

ビロウドマイマイ類は分類学的な検討が不十分で、種名が確定しなかった。近年、愛知県並びに中部地方に分布するビロウドマイマイ類の分類学的な検討が進み、同時に地理的分布の概要が明らかにされた(早瀬・多田, 2005; 早瀬・多田, 2008)。これらの知見を元に岡崎市についても詳細に調査した。その結果、岡崎市内にはビロウドマイマイ類として本種 1 種が分布し、自然度が高い寺社林や自然林に個体数は少ないが生息していることが明らかになった。しかし、生息地は限られ、本種が生息できる環境は明らかに減少し、生息地、個体数とも減少していると考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	情報不足

**【形態】**

殻はビロウドマイマイ類としては中形で殻高約 10mm 殻径約 15mm、螺塔は低く平ら。殻全体はやや丸みをおびる。殻皮毛は密で、臍孔は十分に成長した個体では完全に閉じる。軟体部は黒褐色。

**【分布の概要】**

富山県から愛知県の中部地方を中心に 7 県に分布することが報告されている(早瀬・多田, 2005; 早瀬・多田, 2008)。愛知県内では東三河山地から豊川市、豊橋市、岡崎市、蒲郡市の丘陵地まで比較的広く分布する。岡崎市では茅原沢、北山湿地(緒方清人氏採集)など 7ヶ所で生息が確認されている。山田(1991)では岡崎市内からヒメビロウドマイマイとキヌビロウドマイマイ?と 2 種(1 種と疑問種)が記録されているが、筆者の調査結果と早瀬・多田(2005)および早瀬・多田(2008)から考えて、いずれも本種の誤同定と考えられる。



岡崎市茅原沢, 2010 年 11 月 3 日, 木村昭一 採集

**【生息地の環境／生態的特性】**

丘陵部から山地の湿度が保たれた、自然林もしくは寺社林内の朽ち木や瓦などが積み重なった下面に潜んでいることが多い。周囲の植生が改変され乾燥化が進んだり、朽木や瓦などの隠れ場所が整備され、取り払われると、生息できなくなる。陸産貝類は春から秋の降雨後、夜間には林床の表面にでて匍匐することが多いが、本種は表面に出てくることはほとんどない。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

前述したように、近年の調査では岡崎市内に 7ヶ所生息地を確認したが、その面積は小さく、個体数も少ない。前述したような生息環境が減少しているため、本種の減少の要因と考えられる。

**【保全上の留意点】**

自然林、寺社林を保全すること、林内の倒木や朽ち木等を取り払わない。茅原沢の寺社林では、竹類の照葉樹林への浸食が著しく、適正な伐採を行って、寺社林を保全する必要がある。

**【引用文献】**

早瀬善正・多田 昭, 2005. 愛知県産のビロウドマイマイ属について. かきつばた, 31: 8-19. 名古屋貝類談話会.  
 早瀬善正・多田 昭, 2008. 中部地方に分布するビロウドマイマイ属. かきつばた, 33: 17-211. 名古屋貝類談話会.  
 山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について. かきつばた, 17: 5-7. 名古屋貝類談話会.

**【関連文献】**

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
 天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4: 6.  
 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 343pp. 保育社, 大阪.  
 増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸淡水産貝類相, 74pp. 東海大学自然史博物館.  
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, 日本貝類学会.

(執筆者 木村昭一)

貝類 008	淡水産貝類 マルスダレガイ目 シジミ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>マシジミ <i>Corbicula leana</i> Prime</b>		

**【選定理由】**

マシジミは愛知県の平野部の河川、湖沼にごく普通に生息していた淡水二枚貝であった（愛知県科学教育センター，1967：木村，1994）。しかし、1990年代にカネツケシジミ（タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Muller, 1774) の黄色型）が愛知県にも移入、定着し、マシジミ分布域の多くで、移入したカネツケシジミと置き換わっていることが確認された（原田，2000：木村，2002）。2006年からの愛知県下の調査では、河川下流域、大きな水系とつながった水路等には、カネツケシジミが定着し、マシジミはほとんど見られなくなった。また、貝殻の形態でマシジミと同定される個体でも、同所的にカネツケシジミが生息している場合には遺伝子がカネツケシジミに汚染されている可能性が高い。岡崎市内では昭和30年代にすでに河川の荒廃等で著しいマシジミの減少が報告されており（永井，1985）、本種の生息状況は危機的である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

殻長 30mm 程度の三角形に近い形をした二枚貝。殻表の成長脈はやや荒く、殻の色彩は黄褐色から黒色。カネツケシジミの典型的な個体は殻表の色彩が鮮やかな黄色で内面は白色になるので区別は明確であるが、マシジミかタイワンシジミ類か同定が困難な個体も多く出現する。



1：マシジミ 岡崎市小呂町，2010年3月6日，木村昭一 採集  
 2：カネツケシジミ 岡崎市下佐々木町矢作川本流，2009年7月15日，木村昭一 採集

**【分布の概要】**

マシジミは日本固有種で、東北から九州に分布する。カネツケシジミを含むタイワンシジミ類が日本に移入、定着した例は、1985年岡山県で最初に確認され、その後、兵庫県など西日本において本種の定着が報告されている（増田・内山，2004）。愛知県でも 2000 年に知立市での定着例が報告されている（原田，2000）。マシジミの分布域のうち関東以西の各地では猛烈なスピードでタイワンシジミ類に置き換わっている（増田・内山，2004）。愛知県（木村，2002）、岐阜県、三重県でも同様の現象が確認されている。マシジミかタイワンシジミ類か区別できない個体の生息地も増加している。現在マシジミと形態的に同定される個体のみが生息している場所は、大きな水系とは隔離された小河川のみで、そのような生息地は非常に少なくなっている。岡崎市では矢作川本流部、接続する小河川、水路などにはすでにカネツケシジミ（図 2）が移入、定着している。岡崎市内にはシジミ類が生息できる河川、水路自体が少なく、カネツケシジミの個体数もさほど多くない。マシジミと確実に同定できる個体のみが生息する場所は、今回の調査では、丘陵部の湧水を源流とする小河川 2ヶ所だけにとどまった。そのうちの小呂町の小河川（図 1）は水量が豊富で、水質がよく、比較的多くの個体数の生息が確認できた。

**【生息地の環境／生態的特性】**

【選定理由】の項参照。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

【選定理由】の項参照。

**【保全上の留意点】**

カネツケシジミが移入した水域ではもうどうすることもできないが、せめて未だ移入していない生息地を早急に発見し、カネツケシジミが移入しないように措置を講ずる必要がある。

**【引用文献】**

愛知県科学教育センター，1967. 愛知の動物. 222pp.  
 原田一夫，2000. タイワンシジミが愛知県に侵入. かきつばた, 26: 10. 名古屋貝類談話会.  
 木村昭一，1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
 木村昭一，2002. 豊田市におけるカネツケシジミ（タイワンシジミ黄色型）の繁殖例. かきつばた, 28: 18-19. 名古屋貝類談話会.  
 増田 修・内山りゆう，2004. 日本産淡水産貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 240pp.  
 永井 貞，1985. 岡崎市の貝類. 新編岡崎市史 自然 14, pp.1203-1208. 新編岡崎市史編さん委員会.

（執筆者 木村昭一）



貝類 009	陸産貝類 マイマイ (柄眼) 目 オカモノアラガイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ナガオカモノアラガイ <i>Oxyloma hirasei</i> (Pilsbry)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

陸産貝類ではあるが、平野部から丘陵地の湖沼、小川、水田付近の用水路、湿地などの湿度の保たれた水辺のマコモ等の挺水植物や草本類の茎や葉に着生する。近年、平野部の水辺は改変されたり、水路は護岸工事されることが多く、本種の生息場所は著しく減少している。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

**【種の概要】**

淡水貝類のモノアラガイに貝殻の形態が近似しているが、眼が眼柄の先端にあるなどの軟体部の特徴等で区別できる。殻質は非常に薄く、半透明で脆い。殻は長い紡錘形で、殻口は著しく大きく、殻高 12mm 程度に成長する。殻口は肥厚しない。体層が殻高のほとんどを占める。

本種には春型と夏型がありそれぞれ半年、1年の寿命であることが、静岡県での研究例で明らかになった(早瀬, 2008)。図示した個体は成長休止線が認められる夏型である。関東地方から九州地方に分布し、愛知県内でも平野部を中心に各地の水辺に分布するが、生息地の減少が報告されている。

**【引用文献】**

早瀬善正, 2008. 静岡県清水区能島遊水地におけるナガオカモノアラガイの生活史. 兵庫陸水生物(60): 151-157.

**【関連文献】**

東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 保育社.  
 湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.72. 日本陸産貝類総目録刊行会.  
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.26. 愛知県郷土資料刊行会.  
 山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について. かきつばた, 17: 5-7. 名古屋貝類談話会.



岡崎市生平町男川水系用水路, 2011年5月11日, 木村昭一 採集

(執筆者 木村昭一)

貝類 010	陸産貝類 マイマイ (柄眼) 目 キセルガイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ホソヤカギセル <i>Mundiphaedusa hosayaka</i> (Pilsbry)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

本種は三重県中部、愛知県東部、静岡県西部に分布する中型のキセルガイで、三重県鳥羽市をタイプ産地とする。ミカワギセルとよく似た分布パターンを示す。山地から平野部まで点々と分布するが、寺社林や自然林内の落葉、朽木の下に生息している場合が多い。本種の生息地は現在も少なくはないが、上述のような生息環境の減少は多くの生息地で認められる。岡崎市内でも旧岡崎市内での本種の分布状況の記録(山田, 1991)と比較すると、かつての生息地で今回の調査では生息が確認できなかった例が少なくない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【種の概要】**

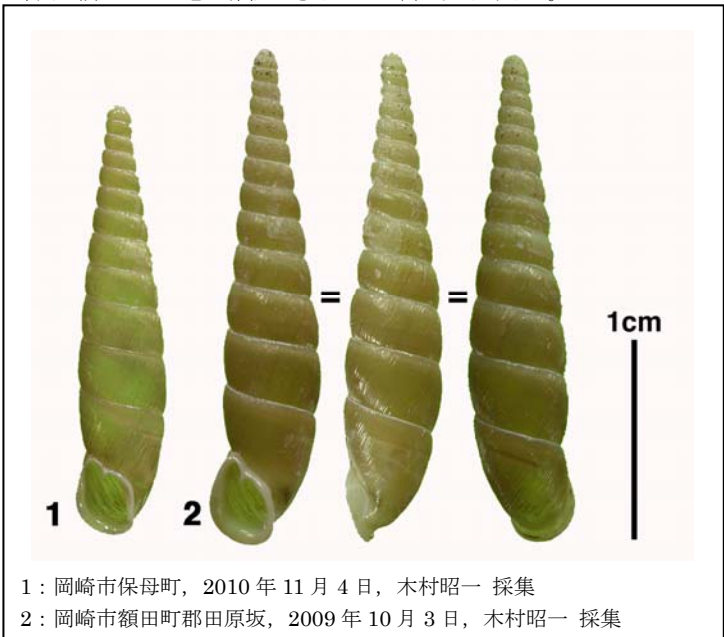
殻高 15~23mm 程度、殻は非常に細長く、螺層数 7~10 層。成長脈は弱く、平滑で光沢がある。主襲と 3~4 の腔襲がある。産地によって殻の大きさには変異が認められる。本種はミカワギセルと比べるとやや乾燥した環境にも見られるが、朽木下など湿度の高い有機質を好む。

**【引用文献】**

山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について. かきつばた, 17: 5-7. 名古屋貝類談話会.

**【関連文献】**

東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 保育社.  
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会.  
 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, 日本貝類学会.  
 増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸産淡水産貝類相, 74pp. 東海大学自然史博物館.



1: 岡崎市保母町, 2010年11月4日, 木村昭一 採集  
 2: 岡崎市額田町郡田原坂, 2009年10月3日, 木村昭一 採集

(執筆者 木村昭一)

貝類 011	陸産貝類 マイマイ (柄眼) 目 キセルガイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ツムガタギセル <i>Pinguiphaedusa pinguis platydera</i> (Martens)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

本亜種ツムガタギセルはキイツムガタギセル *Pinguiphaedusa pinguis pinguis* を原名亜種とする。その他 1 亜種が存在する (亜種関係については種の概要を参照)。市内では本種の分布は限定的で生息地は元々狭く多くない。良く保存された寺社林内の湿度の保たれた朽ち木や落葉の下に生息するが、一部の生息地を除いて個体数も少ない。上述したような生息環境の荒廃は多くの生息地で認められる。岡崎市内でも旧岡崎市内での本種の分布状況の記録 (山田, 1991) と比較すると、かつての生息地で今回の調査では生息が確認できなかった例が少なくない。また、市内に分布する個体群は東海地方の海岸部に分布する個体群と遺伝的に隔離されている可能性もあり、遺伝学的、生物地理学的な観点からも重要な個体群である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【種の概要】**

本種はキイツムガタギセルを原名亜種とし、和歌山県南部にキイツムガタギセル、東海地方の海岸部から近畿、四国にツムガタギセル、関東から東北地方までにツムガタモドキギセル *Pinguiphaedusa pinguis platyauchen* が分布するとされ、キイツムガタギセルが一番小型でずんぐりしており、ツムガタモドキギセルは一般的に大型で細長くなり、ツムガタギセルは前述の 2 亜種の中間的な形態とされる。東海地方でも志摩半島にはかなり小型でずんぐりした個体群が生息する。愛知県では三河山間部から岡崎市、豊田市にかけて分布する個体群を大型で細長い貝殻形態からツムガタモドキギセルと記録することが多かった (たとえば木村・中根, 1996a; 木村・中根, 1996b) が、川瀬 (2012) のように愛知県内に分布するツムガタモドキギセルをツムガタギセルと同種として扱う報告もある。本書では暫定的にツムガタギセルとして記録する。今後の分類学的な研究を待ちたい。岡崎市内の個体群は、大型で細長く、殻高 27~31mm でツムガタモドキギセルのタイプ産地である筑波山産の個体と比較しても細長く大型である。



**【引用文献】**

- 川瀬基弘, 2012. 愛知県豊田市に生息する陸棲軟体動物, 豊田市史研究, 3: 57-80.
- 木村昭一・中根吉夫, 1996a. 第 2 節 軟体動物. 稲武町教育委員会 (編), 稲武町史 -自然- 本文編, 374-378.
- 木村昭一・中根吉夫, 1996b. 第 5 章 軟体動物. 稲武町教育委員会 (編), 稲武町史 -自然- 資料編, 119-126.
- 山田栄蔵, 1991. 岡崎市内の陸産貝類について, かきつばた, 17: 5-7.

(執筆者 木村昭一)

貝類 012	淡水産貝類 盤足目 タニシ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>マルタニシ <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> (v.Martens)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

タニシ科貝類は県内にヒメタニシ、オオタニシ (環境省: 準絶滅危惧、岡崎市: ランク外) と本種が分布している。本種は平野部の水田や用水路などにかつては食用にするほど多産し、最も親しみのある淡水貝であった (紀平, 1990)。近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化のため生息地、個体数とも著しく減少した。

東海地方では 1990 年代ですでに、生息地は少なかった (木村, 1994)。岡崎市内でもため池に健全な個体群が残されているオオタニシに比べて生息地が著しく減少しており、ほ場整備がされていない水田およびそれに続く用水路の敷力所でわずかな個体数の生息が確認されたにすぎない。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

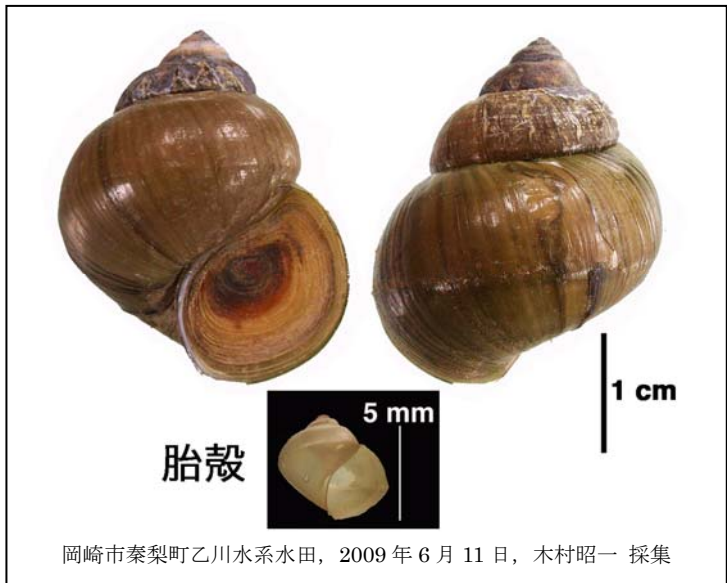
**【種の概要】**

成貝では殻高 6cm に達するが、通常 3~4cm 程度。各螺層は丸く膨れ、縫合は深くくびれる。殻は薄く壊れやすい。蓋は革質で赤褐色。胎殻は周辺にやや丸みがあり周辺角が強くそろばん玉型のオオタニシとは明瞭に区別される。日本、朝鮮半島に分布。国内では北海道南部から九州、沖縄諸島に分布する。

**【引用文献】**

- 紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たち書房.
- 木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報 (第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.

(執筆者 木村昭一)



貝類 013	淡水産貝類 モノアラガイ (基眼) モノアラガイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>モノアラガイ <i>Radix auricularia japonica</i> Jay</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

モノアラガイ科貝類は県内にヒメモノアラガイ、コシダカヒメモノアラガイ、ハブタエモノアラガイと本種が分布しているが、在来種は本種のみと考えられる。本種は平野部の池沼や水田、川の淀みなどの水草や礫に付着している(紀平, 1990)。近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修のため生息地、個体数とも著しく減少した。東海地方では 1990 年代ですでに、生息地は少なかった(木村, 1994)。岡崎市内でも生息地点は少なく、個体数も少ない。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

**【 種の概要 】**

殻高約 2cm に達しモノアラガイ科としては大型種。体層がよく発達し殻口は大きく広く開く。螺塔は低い。殻は半透明で薄く壊れやすい。蓋はない。現在岡崎市内で生息が確認されている個体群は、従来知られていた本種と比べて、殻の膨らみがやや弱く、殻口の広がりもやや狭く、貝殻の形態に若干の差がある。移入個体群の可能性もある。日本固有種。北海道から九州に分布する。



岡崎市合歓木町矢作川水系用水路, 2009 年 5 月 21 日, 木村昭一 採集

**【 引用文献 】**

紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たたら書房.  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.

(執筆 木村昭一)

貝類 014	淡水産貝類 イシガイ目 イシガイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ドブガイ <i>Anodonta woodiana</i> (Lea)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960 年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体(愛知県科学教育センター, 1967)の生息が危機的状況である。本種はイシガイ科貝類としては比較的水質の悪い河川やため池などにも生息できるため、県内における生息場所は木村(1994)を含めて現在約 20 カ所確認されている。岡崎市内でも本種の著しい減少傾向は 1980 年代にすでに確認されていた(永井, 1985)。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

日本産イシガイ科貝類としては大型で、河川に生息する個体は殻長 10cm 程度であるが、湖沼産の個体は大型になり殻長 20cm を越える個体も稀ではない。生息場所によって殻の大きさや形態も大きく変異する。本種には遺伝的に異なる 2 種が知られていて(田部ほか, 1994)、近年ヌマガイ、タガイとして区別することが多いが、貝殻形態による区別は必ずしも容易ではない。正確な同定にはクロキディウム幼生もしくは、生化学的な解析が必要である。そこで、本書ではそれらの検討が十分ではなく、かつ過去の記録もどちらの種に当たるか確認できないので、2 種を内包した形での従来通りの学名と和名を使用する。

シベリア、中国、朝鮮、インドシナに分布。国内では北海道から九州の河川下流域、湖沼に分布するとされるが、全てが同一種かどうか分類学的な検討が必要である。よくカラスガイと呼ばれることがあるが、本種には主歯も後側歯もなく後側歯のあるカラスガイとは全くの別種である。



市内のため池(詳細な地名は非公開とする), 2010 年 8 月 27 日, 木村昭一 採集

**【 引用文献 】**

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
永井 貞, 1985. 岡崎市の貝類. 新編岡崎市史 自然 14, pp.1203-1208. 新編岡崎市史編さん委員会.  
田部雅昭・福原修一・長田芳和, 1994. 淡水産二枚貝ドブガイに見られる遺伝的 II 型. 日本貝類学会誌 Venus, 53 (1): 貝類

(執筆 木村昭一)

貝類 015	陸産貝類 マイマイ (柄眼) 目 キバサナギガイ科	岡崎市 情報不足
<b>ナガナタネガイ <i>Columella edentula</i> (Draparnaud)</b>		

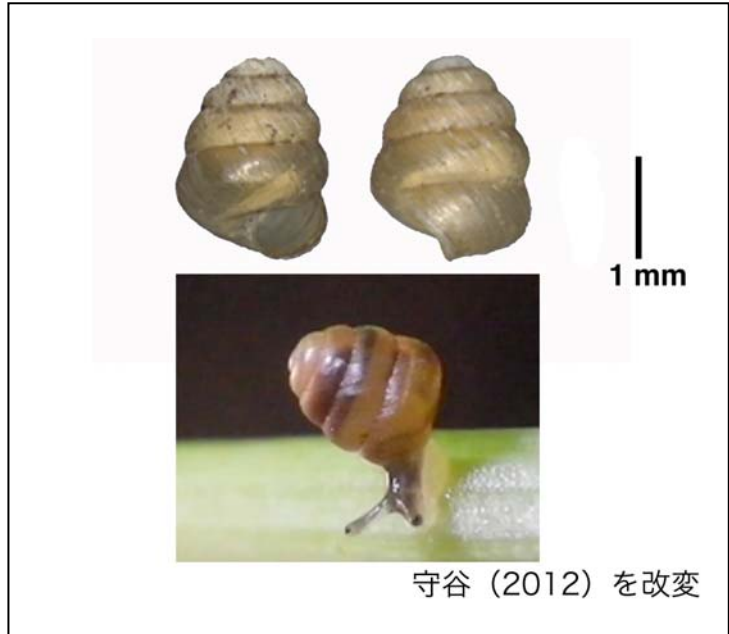
**【 選定理由・現在の生息状況 】**

本種は近年になって、守谷 (2012) によって初めて豊田市から岡崎市にかけて生息が確認された種で、それまで愛知県全域からも記録がなかった種である (例えば野々部ほか, 1984)。前述の地域では標高 350~550m の山間部に分布し、夏季に低木や草本の葉の裏で生息が確認されている。県内での生息環境も守谷 (2012) の報告で初めて明らかになった種であり、生息環境の特殊さから、おそらく岡崎市でも絶滅が危惧される種であろうと思われるが、微小種で採集、観察例も著しく少なく、現時点で判断すべき情報が十分でないので、情報不足とされた。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	地域個体群

**【 種の概要 】**

殻は微小で殻径 1.3mm、殻高 1.7mm 前後、やや高い円錐型で十分に成長した個体は俵型になり、殻口は反転し、肥厚する。殻質は薄く、殻皮は黄褐色。北方系の種群の 1 種で、日本国内では北海道から中部地方を含む近畿地方の高地で生息が確認されている (湊, 2005)。本州のナガナタネガイの個体群は絶滅が危惧されている。



守谷 (2012) を改変

**【 引用文献 】**

- 湊 宏, 2005. 日本産陸産貝類の分布資料 4, キバサナギガイ科: ナガナタネガイ. しぶきつぼ, 26:5-9.
- 守谷茂樹, 2013. 愛知県に分布するキバサナギガイ類 2 種の生息環境について. かきつばた, 37:50-51.
- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, 23-40. 愛知県郷土資料刊行会.

**【 関連文献 】**

- 愛知県環境調査センター (編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 保育社. (執筆者 木村昭一)

貝類 016	陸産貝類 マイマイ (柄眼) 目 オナジマイマイ科	岡崎市 情報不足
<b>カタマメマイマイ <i>Lepidopisum conospira</i> (Pfeiffer)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

本種は愛知県下では岡崎市で初めて生息が確認された種で、岡崎市青木川右岸の畑地と道路間の狭い範囲で 1998 年に生息が確認された (木村, 2000)。その後、同産地でも生息が確認されず、この報告以外岡崎市内では生息が確認されていない。その後県内では豊田市で矢作川沿いの 5 地点で生息が確認されている (川瀬ほか, 2011)。本種は河川沿いの草地や低木林に生息し、特に生息環境に変化がなくても短期間で姿を消す特異な生態が知られており、本種の生息状況を把握するのは容易ではない。生息環境および生態の特殊さから、おそらく岡崎市でも絶滅が危惧される種であろうと思われるが、前述の通り現時点で判断すべき情報が十分でないので、情報不足とされた。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【 種の概要 】**

殻は小型で殻径 6.5mm、殻高 7.0mm 前後の全体に丸み帯び球形に近い。螺等はやや高く、臍孔は狭いが明確に開き、十分に成長した個体では殻口は反転し、肥厚する。殻質は薄く、殻皮は赤褐色で成長脈に沿って突出した微小な低い三角形の突起で被われビロード状。日本国内では群馬県から広島、四国に分布し、朝鮮半島からも記録がある。分布域における生息地点は少なく、散在している。また一度記録された生息地から再確認されない場合も多い。



岡崎市西阿知和町青木川右岸, 1998 年 7 月 19 日, 木村昭一 採集

**【 引用文献 】**

- 川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類. 豊橋市自然史博物館研報 (21): 31-43.
- 木村昭一, 2000. 愛知県より初めて採集されたカタマメマイマイ. かきつばた, 26: 11-13. 名古屋貝類談話会.

**【 関連文献 】**

- 愛知県環境調査センター (編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 保育社.

(執筆者 木村昭一)